

青森営林局は、かつて青森・岩手・宮城の三県を管轄し、秋田営林局と並んで東北の山林を管理した国の大官庁だ。しかし森林行政の変化と省庁統廃合の影響で秋田営林局に統合され、現在は東北森林管理局青森



安部城鉱山（大正初期・県史編さんグループ所蔵）
昨年11月に鉱山周辺が「鉱山の森」として整備された。
旧川内町のみならず、青森県の貴重な近代化遺産である。

事務所となり、規模も大幅に縮小している。森林王国の青森県で、青森営林局は様々な業務に携わっている。名前の通り森林行政が主管業務だが、実は意外な活動をしている。そのひとつが鉱山に関する調査である。

1912（大正1）年、青森県下北郡の川内村（現山が森林に及ぼす影響を考慮し、綿密な調査を実施して膨大な記録を残した。それらの調査報告書は鉱山研究の資料としても優れたものである。一部ではあるが「青森県史資料編近現代3」と「同4」にも掲載した。ぜひご覧いただきたい。

このほかにも青森営林局は、神社・仏閣の所有林と国有林の関係を調査したり、山林経営をめぐる委託契約から、山村民の生活状況までも綿密に調査している。とくに「昭和九年大凶作」の村落調査は、農村恐慌時の山村の実態を描いた貴重な資料である。膨大な分量があるため、残念ながら「青森県史資料編近現代」には収録できなかった。

一方、1926（大正15）年に営林局は管轄内の観光地を調査し、克明な報告書も作っている。営林局が観光調査？と驚くが、山林が観光資源となっている昨今の状況を考えれば納得できると思う。

山の管理者

“青森営林局”

中 園 裕

（県民生活文化課

県史編さんグループ

主査）

むつ市）で安部城（あべしろ）鉱山が製錬を開始した。現在、安部城鉱山を知る人は少ないだろう。けれどもこの鉱山は青森県最大の鉱山として、一時は県の産業を支えるほど大きな存在だったのである。

写真を見ると、手前に精錬所がいくつも並んでおり、鉱山の巨大さに驚かれよう。しかし精錬所の背後を見る

史資料編近現代3」と「同4」にも掲載した。ぜひご覧いただきたい。

このほかにも青森営林局は、神社・仏閣の所有林と国有林の関係を調査したり、山林経営をめぐる委託契約から、山村民の生活状況までも綿密に調査している。とくに「昭和九年大凶作」の村落調査は、農村恐慌時の山村の実態を描いた貴重な資料である。膨大な分量があるため、残念ながら「青森県史資料編近現代」には収録できなかった。

一方、1926（大正15）年に営林局は管轄内の観光地を調査し、克明な報告書も作っている。営林局が観光調査？と驚くが、山林が観光資源となっている昨今の状況を考えれば納得できると思う。

調査は青森県内だけでも八甲田山や十和田湖をはじめ、全部で22箇所を対象としている。具体的な調査内容は、調査地域の沿革から特徴、交通網や宿泊施設、施設の現状や改良意見など、全部で20項目に及んでいる。このうち、八甲田山・蕨温泉・浅虫温泉・岩木山・大鰐温泉・恐山の6カ所に関する調査報告書を、「青森県史資料編近現代3」に掲載した。これも併せてご覧いただきたい。

青森営林局は林業を管轄していたというより、山全体の管理者だったと見なした方がよいと思う。